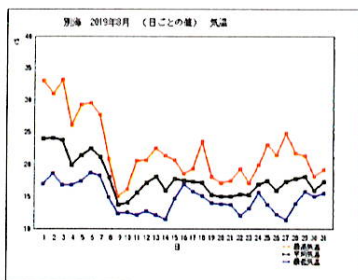


【ショートカット女子!!】

○はじめに

最近は暖かい日が増えてきて、夜でも氷点下に気温が下がることのなくなってきましたね。先日は30℃近い気温となり、去年の夏を思い出しました。

去年の8月上旬は最高気温 35℃近い日が続き、暑熱ストレスによる周産期疾病や乳房炎が多発しました。そこで今回



気象庁ホームページより引用

は乳房の汚れを尻尾の毛の伸び具合から比較し、乳房の汚れを減らすことで乳房炎の予防、搾乳時の清拭の簡易化、さらにはロボットの乳頭読み取り時のミスの減少について考えていきます。

○乳房の汚れと乳房炎リスク

乳房の衛生スコアは以下の様にスコア分けできます。

スコア	乳房の状態
1	糞便がほとんどない
2	少量の糞便の跳ね返りが見られる
3	糞便がまだら状に見られるが、毛は識別できる
4	糞便がべったりと付着している

夏はこの乳房衛生スコアが上昇することが明らかとなっています。つまり夏はほかの季節と比較してウシが汚れやすいです。さらに夏は気温の上昇に伴い、乳房炎原因菌の増殖が、活発に行われます。また乳房衛生スコアと体細胞数および体細胞数と乳房炎のリスクはそれぞれ関連します。これらより、乳房を衛生的に保つことで乳房炎のリスクを減少させることができるというわけです。

○タイストールの場合

タイストール牛舎の場合、写真の様に尻尾を吊り下げることができるため糞尿が付着しにくいですが、一方で吊り下げることができない場合は毛を切ることで搾乳時の乳頭清拭が楽になり、乳房炎の予防の一助とすることができると思います。また、タイストールの場合は、カウトレーナーのこまめな調節を行い、日々微妙に変化するウシの立ち位置に対応することが大切だとおっしゃっていました。

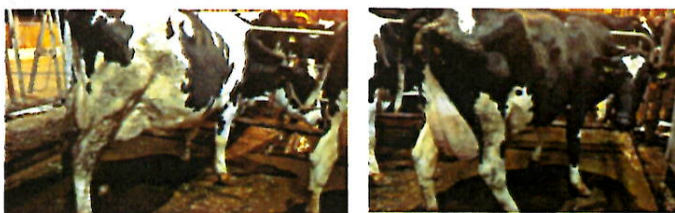


○フリーストールの場合

ベッドのサイズが適切であってもウシによって尻尾の置く位置は異なります。きれい好きであればうまく尻尾をたたんでベッドにしまっていたり(左)、いたずらっ子であればストールの糞尿をべちゃべちゃして遊んだり…(右)。右のウシは尻尾を上手く仕舞っておらず尻尾は糞尿でべちゃべちゃになっています。一方で左のウシたちはベッドの上うまく尻尾を載せています。(ただ横向きに寝ているのはご愛嬌ということで)



それでは尻尾の毛を短く切ったウシと長いままのウシを比較してみましょう!



尻尾が長く汚れているウシ(左)と、尻尾が短く汚れていないウシ(右)の写真です。左は汚れた尻尾の届く範囲に汚れが目立っており、後ろ2本の乳頭にも汚れが付着していました。一方、右のウシは後肢の汚れおよび乳房への汚れはほとんど認められません。この2頭を乳房衛生スコアにより評価すると左のウシがスコア1、右のウシがスコア3です。



Total Herd Management Service

○尻尾の毛刈り

ウシの尻尾の毛が意外と太く、実際に毛刈りをするとなるとかなりの時間がかかりました。今回行った方法をご紹介します。

・はさみ…キッチン用ハサミを使用しましたが毛の太さに負けて切るのに苦労しました。刃渡りが長いものを使用することが効率を上げる鍵か!?

・鎌…毛並みに逆らって切ることが困難でした。もっとも切れ味はいいのでうまく使えば一番いいかも!?

・バリカン…毛並みに逆らって剃るのは最も楽だが、尾先の毛を切断するのは困難でした。はさみと役割分担がベスト!?

○ロボット搾乳機での

デメリット

ロボット搾乳機で誤認識されうる尻尾の毛の長いウシ。また尻尾の汚れが乳房や後肢を汚していることが考えられます。効率的にロボットを稼働させるため、毛の長さは短く保ちましょう!!



○おわりに

今回は尻尾の毛刈りを実際に行ってみました。意外と手間と時間のかかる作業でした。しかし、毛を短く保つことのメリットを考えると是非実施していただきたいです!何かスムーズに毛刈りできる方法をご存じの方がいらっしゃいましたら是非教えてください!

津曲歩徑



Total Herd Management Service